

竹刀に気持ちをこめて

国府小・4 稲田 明青

「竹刀と小手を持って来て。」

と小手をつけたお父さんが言いました。

「竹刀の先だけを見ろ。」

相手が動くしゅん間に打つ練習。私のうでを持ってせ中を思い切りおして面を打つまでの速さの練習。さらに、声の出し方の見本を見せてくれました。練習をしていくと、右足で攻めることや、左の方にぶつかっていくことなど、細かいことが分かってきました。いつものけいこよりもとてもきれいに打って、自分でもびっくりするほどで、とても自しんができました。

お父さんと練習する前は、さがりどうやおうじわざなどをし合で使っていたので一本が取れず、二回、三回もえん長いせんをして、相手に一本取られるパターンが多かったのでお父さんが、

「面と小手だけを打ちなさい。」

と言いました。私が理由を聞くと、

「さがりどうやおうじわざで後ろにさがってしまつて、おたがい竹刀でガチャガチャやり合うようでは将来強くなれない。」

と言っていました。

私の道場では毎月、し合をして学年の中でゆう勝すると、たれぶくろをもらえます。

まだ一度も「月れいゆう勝」をとったことがなかったので、お父

さんに小手の打ち方を教えてもらうことにしました。お父さんがほめてくれるすがたを想ぞうしてにやにやしてしまいました。前のし合では小手を教えてもらつたとおりに打って決められたことがあつたので、自しんがありました。いつもしずかなお父さんが、小手の打ち方を教えてくれて心がぼかぼかして、より勝ちたいという気持ちが強くなりました。けん道場へ送ってもらう車の中でお父さんに、「相手の方が早くせめてきたら受けてもいいから、自分がせめて。」と言われました。

一し合目、いつも負けてしまう女の子が相手です。始まるとすぐに面を打ってきました。私もせめました。相手はふりが小さくきれいな面が打てるのでひやひやしました。なかなか決まらず、えん長せんに入りました。一本取つたら勝てるというやる気と、一本取られたら負けてしまうというきんちようを感じました。とにかくせめてみようと思い、お父さんの言葉を頭の中でくり返しました。

「打たれてしまったらだめだ。」

と違って、さい後の力をふりしぼりました。その時、自分の竹刀が相手の中心に入っていることに気づき、ぱつと竹刀をふりました。するとはたが上がりました。心ぞうの音が大きくなっていききました。

二し合目は、打つタイミングが合わない女の子が相手です。しっかりとせめてから打とうとしますが、だんだんつかれてきて、打つてもふみこみとぎん心ができなくなってしまいました。一し合目の勝ちをむだにしたくないという気持ちで、面を打ちました。面を打つと、はたが上がり、心のそこから温かくなつていくの感じました。ついに決勝せん。相手は小手がとく意で、決勝じょうれんの男の子です。絶対に勝つて、「月れいゆう勝」をお父さんに見せたいという

気持ちでのぞみました。お父さんに教えてもらった小手でせめます。絶対に取る。ここで負けたらもつたない。先に打たれたらどうしようとかあせりながら打つと竹刀が少し深く当たってしまったので、はたは上がりませんでした。

次は行ける、そう思ったしゅん間に打ちます。パンツといい音がして、ぎゅつと竹刀をにぎりました。その時、はたがぱつと上がりました。

夜、仕事から帰ってきたお父さんに今日の試合でのことを話しました。すると、

「おつ、ゆう勝しちゃったの。」

少しおどろいたような、うれしそうに顔でいました。その時やつとほつとできました。

動画も見てもらいました。

「どっちが勝ってもおかしくないし合だね。」
と言っていました。

はじめての決勝せん、はじめて勝てた相手、はじめてのゆう勝。自しんをもてば、何でもたっせいできることを知りました。これからはじめてのことも自しんをもつてのぞんでいきたいと思いましたが。